

東京慈恵会医科大学 英語

2021年2月11日実施

I.

- (1) 3 (2) 4 (3) 1 (4) 3
- (A) 1 (B) 2 (C) 2 (D) 2 または 4
- 2
- 1
- 4
- 3

7. (解答例 1) It depends on how you define the word “ethic.” Focusing on an individual, it may be true that Dr. Jenner should not have put the boy’s life at risk by testing his vaccine. However, considering a potential benefit for human beings as a whole, such a clinical trial should be seen as ethical, because millions of lives can be saved in the long run. (64 words)
(解答例 2) I think Dr. Jenner’s method of testing his vaccine was unethical if judged by modern standards, because it seems that he did not obtain a valid consent from the boy, putting the boy’s life at risk. It is now essential that doctors give detailed information to subjects before conducting a clinical trial. (52 words)

<講評>

ジェンナーによる種痘法の開発から始まる、人類と天然痘との闘いについて述べた英文。空所補充+類語選択+内容一致+英作文という構成は昨年度と同様。英作文では、昨年度は本文の内容をまとめるタイプの問いが出題されたが、本年度はジェンナーによるワクチン開発の倫理性について自分の意見を述べるタイプの自由英作文であった。

1. (3) は 1 と 2 で迷う。isolate は、Oxford 英英辞典で “to separate a single substance, cell, etc. from others so that you can study it” と定義されているように、どちらかと言うと「複数の物質が混じり合った状態から純粋な一つを分離する」というイメージがあるため、水ぶくれから膿を採取するのに用いるのはやや不自然な感がある。また、同じく Oxford 英英辞典によれば、extract の定義は “to remove or obtain a substance from something, for example by using an industrial or a chemical process” とあることから、出題者としてはこちらを正答と想定しているのではと推測し、1 を正答とした。

2. (4) は 2 と 4 で迷う。どちらを補っても論調として違和感がないため、いずれかに絞ることはできなかった。rigorous は「厳格な、厳しい」の意で解釈すると文脈に適合しないが、Oxford 英英辞典には “done carefully and with a lot of attention to detail”, Longman 英英辞典にも “careful, thorough, and exact” とあるように、「注意深く、徹底的に」の意でとれば不自然とは言えない。challenging も「骨の折れる」という意味の形容詞で、もちろん文脈に適合する。理屈をこねるようであるが、2. の問題文には “Choose the correct word from the list ...” とあることから、理論的に正しい選択肢であれば正解になり得るのではないか (1. の問題文にはきちんと “Choose the best meaning” とある)。以上の議論から、2 または 4 を正答とした。

II.

1. (C) 2. (B) 3. (A) 4. (B) 5. (A)
6. (C) 7. (C) 8. (B) 9. (C) 10. (D)

<講評>

医療における日光の重要性について論じた英文。昨年度の大問IIは、適語補充（記述式）4問＋フレーズ補充（選択式）8問の構成であったが、本年度はフレーズ補充のみが10問出題された。文法・内容の両面から選択肢を絞る必要があり、網羅的な英語力・読解力が求められるという意味で難度の高い大問。

III.

1. (1) 3 (2) 4 (3) 1 (4) 3
2. (A) 4 (B) 3 (C) 4 (D) 4
3. 4
4. 1
5. 3
6. 2

<講評>

推測の精度と学習との連関について論じた英文。概ね大問Iと同様の問題構成であるが、こちらの大問では英作文が出題されなかった（昨年度は本文中の空所を文脈に適するよう作文するタイプの問いが出題された）。

6. は2と3で迷う。3. の“wild guesses”については第2段落最終文に言及があるが、学習が容易でないのはあくまで“if the error made is a wild guess and out in left field”の場合であり、単に当てずっぽうで推測したから覚えづらくなるというわけではない。ただし厳密に言えば、2. の“if they guessed the wrong meanings at first”は、本文中で言うところの“near miss”をした場合を含むと考えられるため、一概に記憶が難しくなると結論づけることはできないのではないかと（本文で述べられている通り、ミスはミスでも“near miss”の場合には正しい情報を記憶するのが容易になってしまう）。もし選択肢が“completely wrong meanings”などとなっていれば、疑問なく選ぶことができた。

【総評】

大問構成および出題形式は昨年度とほぼ同一であった。相変わらず語彙レベルは高い一方、60分という試験時間に対しては比較的余裕のある分量と思われる。難解語も周囲の文脈から推測可能なものが多いため、じっくり精読しよう。英答問題については、昨年度は本文の内容をまとめた空所を論理的に埋めるタイプの英作文が出題されたが、本年度は本文に関連したテーマの自由英作文であった。2019年度まで長らく出題されていた和文英訳は本年度も出題されなかった。全体として英作文は大問Iに1問のみとなり、その分解答欄は4行とやや長めであったが、昨年度とは異なり条件の緩い自由英作文であるため、比較的取り組みやすかっただろう。

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは… YMS ☎03-3370-0410 まで